

今春入隊者が母校の恩師に自分の成長を披露



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は5月2日（水）、今春静岡県立静岡西高等学校（静岡市）を卒業して陸上自衛隊に入隊した、菊地庸介2等陸士、名和大我2等陸士、浅場勇人自衛官候補生の母校訪問に同行した。

菊地2士と名和2士は武山駐屯地第117教育大隊（神奈川県横須賀市）、浅場候補生は板妻駐屯地第34普通科連隊教育隊（御殿場市）において、それぞれ一人前の自衛官になるために基本教育を受けている。

陸上自衛隊の新制服に身を包んで母校を訪問した3人は、校長室で渡邊健校長をはじめ、学年主任、部活動の顧問など、在校時お世話になった恩師に近況報告を行った。

対応した教諭たちは、ついひと月前に卒業した頃に比べ、身体は引き締まり一回り大きくなった姿に感心するとともに、訓練の様子や隊内での生活などのほか、自衛官としての決意を話す教え子の成長に目を細めていた。

静岡地本は、引き続き学校と連携を図り、優秀な人材の継続的な確保に努めるとともに今後も県内出身隊員の成長を見守っていく。

自衛官候補生が母校の後輩に自衛隊をPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月2日（水）、今春自衛官候補生として航空自衛隊に入隊した二人の母校訪問に協力した。今回母校を訪問したのは、ともに浜松東高等学校（浜松市）を卒業後、熊谷基地（埼玉県熊谷市）第2教育群に入隊し訓練に励んでいる、伊賀上航候補生と鈴木健介候補生。両名とも入隊一ヶ月が経ち、卒業後初めての母校訪問となった。

当日はあいにくの雨模様となったものの、二人は真新しい制服に身を包み、自衛官らしい凛々しい姿で母校の門をくぐった。在学中にお世話になった進路指導課の柿澤広之教諭と面会し、学生時の懐かしい思い出や自衛隊入隊後の生活、訓練の様子、今苦労していることや楽しいことなどの話題に花が咲いた。柿澤教諭は、短期間での教え子の成長に感心している様子であった。

その後、二人は在校時それぞれが在籍していたサッカー部及び柔道部を訪問。それぞれの顧問教諭や後輩部員たちと和やかに談笑し、入隊後の近況報告をするとともに、自衛隊の魅力ややりがいなどをPRし、後輩たちの質問に答えていた。

訪問を終えた二人は「今後も訓練に励み、早く一人前の自衛官になれるよう頑張りたい。また、夏季休暇にも母校を訪問して、後輩が私たちと同じ道を志願してくれるよう広報したい」と話した。

静岡地本は、引き続き「先輩の声」として入隊者の母校訪問を支援し、学校との懸け橋となって自衛官希望者の確保に努めていく。

世界最大級のホビーの祭典で16式機動戦闘車等を展示



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月12日（土）と13日（日）、ツインメッセ静岡（静岡市）で開催された「第57回静岡ホビーショー」において、広報活動を実施した。これは、国内の模型メーカーや模型ファンが一堂に会す、世界最大級のホビーのビッグイベント。2日間で全国から7万人以上の来場者が訪れた。

会場正面入り口には、陸上自衛隊富士学校戦車教導隊（駿東郡小山町）の16式機動戦闘車や、板妻駐屯地第34普通科連隊（御殿場市）の軽装甲機動車、高機動車、偵察用オートバイが並び、来場者の視線を集めた。特に新しく模型の発売が決定している16式機動戦闘車は注目度が高く、自走で会場を移動する際には、一目見ようとカメラを構えた多くの来場者が詰めかけた。

また、静岡地本は自衛官採用制度説明を行ったほか、災害派遣活動の紹介、迷彩服や制服の試着体験、子供向けぬりえコーナーなどを実施。板妻駐屯地キャラクター「ITAZUMAN（イタズマン）」と静岡地本マスコットキャラクター「しずぼん」が揃って登場すると、多くの子供たちに囲まれていた。

静岡地本は、今後も県内で開催される各種大型イベントで自衛隊をPRし、地域の皆様に自衛隊への理解を深めてもらうとともに、自衛官の人材確保のため広報活動に努めていく。